

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	18HP1002	事業期間	平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
生態学分野3誌の共同出版によるアジアからの国際情報発信の強化		一般社団法人日本生態学会	代表理事・湯本 貴和
学術刊行物の名称			(略称)
Ecological Research, Population Ecology, Plant Species Biology			ER PE PSB

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>当初に掲げた、3つの学術雑誌の合同出版体制の構築とそれぞれの学術論文の着目度の向上を図るという目標に対して、合同編集局の構築と運営の立ち上げ、並びに編集の効率化を達成している。また、Journal Impact Factor (JIF) や論文ダウンロード数、被引用回数といった項目においても、概ね順調な成果が認められる。</p> <p>また、先進的海外編集者招聘等の計画については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により修正を余儀なくされたが、別の国際情報発信活動の計画を立案する等の団体の対応を評価し、進捗があると判断した。</p> <p>一方で、学術論文のオープンアクセス (OA) 化については、必ずしも順調に推移しているとは言えず、目標達成までの困難も予想されるが、これらについては団体も十分に自覚していることから、今後の課題としての対応を期待する。</p>	